

かけのまち子議員の反対討論

議案第 4 号 江南市布袋ふれあい会館の設置及び管理に関する条例の一部改正について、

この議案は、布袋ふれあい会館の浴場を、2024 年 3 月末で廃止する条例の改定です。老人福祉センターのお風呂の廃止と同時に、建替えるわけではない布袋ふれあい会館のお風呂まで、3 月末で閉鎖するのはあまりにも理不尽です。低料金で利用できる高齢者福祉のお風呂を市内からすべて無くなくすこととなります。12 月議会の存続を求める請願の討論で述べましたが、高齢者福祉を目的とするお風呂が一つもない近隣自治体はどこにもありません。

お風呂を安く利用できることで、健康を保持し、経済的にも助かり、他の高齢者とふれあい、安心して過ごすことができます。

老人福祉センターのお風呂を無くすのなら、ふれあい会館のお風呂は 2 か所分の重要な意味があり、傷んできているのならば改修すれば良いのです。

お風呂廃止の代替策として、すいとぴあ江南の浴場を 60 歳以上、130 円で利用できる 1 年間の入浴券補助が提案されていますが、布袋からすいとぴあ江南まで名鉄バスに乗ると、片道 500 円、往復 1000 円もかかります。バス代の補助も合わせてなければ、車に乗れない方々は経済的に厳しく行くことができません。誰一人取り残さない市政と言いながら、これでは取り残しだらけではないでしょうか。

実効性のない期間限定の代替策でお風呂を廃止してしまえば、行き場を無くし困り果てる高齢者が生まれます。財政効率を優先して高齢者を切り捨て悲しませるようなことがあってはなりません。ふれあい会館のお風呂の廃止条例に反対し、存続させるべきと強く訴えて、討論を終わります。

議案第 23 号 令和 6 年度江南市一般会計予算

令和 6 年度の新規事業として、学校給食費の 4 月 1 か月分の無償化や、鉄道高架下へ 2 か所目のリサイクルステーションの開設、いこまい CAR や福祉タクシーの迎車回送料金 200 円の市負担による利用者負担の軽減、地域公共交通会議検討部会の設置による新たな公共交通の検討、古南・古西小学校への雨水貯留施設整備の準備、学童保育環境整備のための事務職員の配置、公共施設の LED 化、江南駅周辺の交通環境改善の取り組みなど、低所得のグループホーム入所者への家賃補助など、市民要求に応えた事業が盛り込まれたものの、以下の数々の問題について指摘をしておきます。

① **自治体情報システムの標準化・共通化のための予算 2 億 6 8 9 3 万円**が計上されています。原則 2025 年度末完了を目指し、一斉に基幹 20 業務を標準準拠システムへ移行しなければならなくなっています。しかし、標準準拠システムからはみ出す江南市独自の施策を行おうとすると、余分の経費をかけて別の手法でシステムに手を加えなくてはなりません。結局、減免など市独自施策の実施は困難となりかねません。これでは国が作る鑄型にはめ込まれた市政となってしまいます。

② **会計年度任用職員の処遇の改善が足りないことを指摘します。**

企業会計、特別会計を含め当初予算で 680 人の正規職員に対し、低賃金・不安定な会計年度任用職員数は、昨年 12 月時点で 990 人にも上ります。特に保育園は保育士の 65%、学童保育は支援員・補助員の 100%が会計年度任用職員です。

江南市は議案質疑でも指摘したように、会計年度任用職員の期末・勤勉手当の支給要件を多くの他市町と比べて厳しく、適用範囲を狭めており、同じ時間数働いても給与が他市町よりも低く抑えられています。

昨年、人事院勧告に基づく給与改定で大幅な給与の引き上げがありました。国から再三通知があったにもかかわらず江南市は会計年度任用職員だけ遡及適用せず、大変な不利益を会計年度任用職員にもたらしました。会計年度任用職員を冷遇しすぎています。抜本的な処遇の改善、正規職員化を進めることを求めます。

③ **布袋ふれあい会館や老人福祉センターのお風呂を廃止することは大問題です。**

老人福祉センター、布袋ふれあい会館のお風呂を 3 月末で廃止し実効性のある代替策もなく高齢者を取り残すことは許されません。また、老人福祉センターを建て替えるにもかかわらず、老人福祉機能のないものにしようとしています。福祉の後退も甚だしいといわなければなりません。

④ **国民健康保険特別会計への一般会計法定外繰入金をさらに削減しようとしている。**

赤字補填目的の一般会計法定外繰入金を 3500 万円削減し、今でも高すぎる国保税を

さらに引き上げようとしています。国県のいいなりに法定外繰入金を削減して、非正規ワーカー、自営業者、年金生活者といった、経済的な弱者ばかりの国保被保険者をこの酷い物価高騰下に追い詰めるのではなく、弱者を支える立場に立って、負担軽減のための繰り入れを継続するよう求めます。

⑤ **あすま・中央保育園を統合した民間大規模保育園の整備費補助 1 億 5444 万 7 千円が計上されていること。**

一般的に営利目的の株式会社が経営する民間保育園では、保育士の人件費を削って利益を出そうとするために、経験年数の浅い保育士の割合が多くなり、離職も絶えず、不安定な保育環境になりがちです。また今回選定された事業者は、200 人を超える大規模な保育園の運営が初めての業者です。

市が毎年しっかりと監査を行い、運営委託費に占める人件費比率や保育士の離職状況を市に報告させ、不適切保育を絶対に起こさせないこと。また交通量の多い危険な幹線道路に面した保護者送迎用駐車場と、抜け道になる周辺の生活道路の朝夕の交通安全対策については、事業者任せにせず、市として厳重な注意を払うことが必要です。

⑥ **学童保育の深刻な待機解消への抜本的な対策が打ちだされていない上に、夏休み期間中の人手不足を人材派遣で補うための、人材派遣業務委託料 554 万円が計上されていることです。**

人材派遣会社へ市が支払う派遣補助員 1 人 1 時間あたりの額は税込 2310 円にもなると答弁がありました。直接雇用の補助員の時給 1020 円に比べ 2.2 倍もの高額です。

資格のない派遣補助員が、直接雇用の方より高い賃金で雇われていることが分かれば、支援員間の協力体制に深刻な影響を及ぼします。派遣では、この先も経験と研修を積んで学童保育の担い手になってもらうことは望めません。

夏休み期間の派遣委託は 2 年目です。その場しのぎの派遣委託を繰り返すのは止め、不足する学童保育施設の早急な拡充、支援員の処遇を大幅に改善し支援員が辞めてしまわれないように常勤配置に踏み切り、深刻な待機児童の解消を図るべきです。

⑦ **曾本工業用地開発への着手の予算が盛りこまれていること。**

世界的食糧難への不安が増大し、耕作放棄地の解消と新規就農者の確保、農業振興の必要性が高まる中、優良農地をつぶすことは時代の要請に逆行するのではないのでしょうか。また、市が工業用地開発で投入する財源を、進出企業の払う法人市民税で回収するのに 88 年もかかる計算で、投資額が巨額すぎます。

⑧ **布袋東部 280 号線の改良整備について**

布袋駅東複合公共施設の南東側、住宅密集地を突き切って整備しようとしてきた布

袋東部 280 号線は、布袋駅東複合公共施設が竣工し1年が経過した現在でも、まだ整備の途上です。整備が遅れていても周辺交通になんら不便は来たしていません。巨額の整備費にみあう必要性のないことが分かった 280 号線は、今からでも取りやめるべきです。

⑨ **藤が丘、古知野児童館、交通児童遊園の児童館 3 施設の廃止と一体の、仮称多世代交流プラザの建設に向けた予算が計上されていること。**

老人福祉センターの取り壊しと、跡地への児童館機能を含む多世代交流プラザの建設計画は、有利な起債を活用しようとして当初から進め方が性急、拙速で、社会福祉協議会や子育て関係の団体の方々からも批判の声が出ていました。

廃止予定の児童館、なかでも藤が丘児童館については「説明がなく知らなかった。納得がいかない。不登校児童の居場所として必要な児童館をなくさないでほしい」など、現時点においても、地元自治会が存続を求め署名運動を展開している有様です。地元住民への丁寧な説明と合意を得る時間をかけた話し合いが足りなかったことは明らかです。

今からでも、藤が丘児童館を存続させるよう計画の変更の検討を求めます。

以上、令和6年度一般会計予算案について9点にわたり指摘をしましたが、指摘しきれない点は他にもあります。

令和6年度は江南市政70周年の節目の年です。「誰一人取り残さない」「市民との対話が基本」「すべての世代に実感できる幸せを届ける」と、耳触りの良い言葉が躍る施政方針ではありましたが、実際はまるで反対の進め方、財政効率優先の予算編成になっているのではないのでしょうか。

本当の意味で、市民誰一人取り残さない市政、市民が幸せを実感できる市政、すべての市職員がやりがいと誇りをもって市民の幸せのために働き続けることができる市政運営を求め、反対の討論を終わります。